

頼まれて「土日は山に行くから平日週3日でもよいなら引き受けてもよい」と返事したら、「それでも来てくれ」と言われて白馬八方ゴンドラのバイトをやっている(安い時給で若い方はやりません)。最初は小遣い稼ぎのつもりで何でもやってみようと始めて、グリーンシーズン3回目。冬の八方ゴンドラはきつすぎ、冬は1シーズンだけやって、その後は会社が同じ岩岳へ。

グリーンシーズンのお客さんは千差万別だ。個人的に見た感じでは、95%以上が観光か徒歩1時間強の八方池までのトレッキング。登山者も唐松小屋泊でのピストンがほとんどだ。1時間ほどの歩きもきつい観光客は、ゴンドラとリフト2本で行ける八方池山荘周辺を散策し、涼風と展望を楽しんで帰って行く。ほとんどが中高年で、しっかり歩けないお年寄りや車椅子の方もいる。車椅子の方は兎平までだが、ゴンドラに乗せるときや下ろすのは一苦労だ。普通の人でも日常生活で、動いている乗り物に乗ることはあり得ない。おそらくエスカレーターくらいではないだろうか。従って、乗用車に乗り降りする感覚である。乗るときはほとんど問題ないが、降りるときは座ったまま足を出してホームに着いてから立ち上がろうとする。ところがゴンドラは駅に到着すると速度が遅いとはいえ動いている(緊急時やかなり足の悪い方の場合は、当然手で係が非常停止させる)ので、駅に着いた足は固定しているため動いているゴンドラに挟まれる危険があるのだ。車と違って下車する頃にはゴンドラの天井は開いているので乗ったまま立ち上がることができるのだが、どうしても自動車の感覚で下車しようとする。若い人はまだいいが、片足にしっかり立てない高齢者は冷や冷やするときがある。

因みに、乗客人数は終日雨などの時は3桁もない日があるが、最盛期は1000~2000人。天気がよければ3000人を越す日もある(片道)。

平日はツアー客が多いし、6~7月は学校登山もかなり入ってくる。長野県は大正時代からほとんどの中学校で学校登山が行われているが、近年は「楽ちん」登山に変わりつつある。唐松岳まで登ることなく、途中の丸山まで行くのはまだいいほうで、八方池で引き返す学校もある。この場合、学校登山として認識して実施されているのかはよくわからない。丸山まで行く学校でも、山案内人をつける。小屋で1泊して唐松まで行く場合は、山案内人はもちろん医者か看護師がついている。至れり尽くせりだ。あの「聖職の碑」時代とは雲泥の差である。(「山案内人」は長野県独特のもので、県が認定している。全国唯一のシステム)

登山者といっても多くは池までのトレッキングだから当然軽装だが、他の山ではほとんど見ることがないT型のストックの方が圧倒的だ。しかもダブルがかなり多い。唐松まで行ってきたと思われる登山者の中には、ザックに様々なものをぶら下げている。I型ストックの場合でも(6月中旬くらいまではピッケルを持っている場合でも)手に持たず、ザックに差し込んだままゴンドラに乗ってくる。登山計画書はゴンドラ乗り場に提出ポストがあるので投函すればいいだけだが、ほとんどが用意された「登

山届」用紙にテーブルの上で記入している。山岳会グループには見えない単独から3人くらいまでの登山者が圧倒的だ。たまに片道切符の方があるので登りの場合はどちらへ、降りてきた方にはどちらからの縦走ですかとお尋ねすることがある。五竜から遠見尾根が多いが、下山者では扇沢からとか猿倉からという人もある。多くは小屋泊と思えるザックだが、マットを着けた方やファミリー山やさんもあり、そんな姿を見るとほっとする。

様々な人間模様が垣間見えるゴンドラバイトであるが、今年は残念ながら梅雨が明けてからの方が雨が多く、降らなくても一日中曇天のまま。ピーカンの時間なんて全くない。白馬三山が見えた日は数えるほどしかない。このまま今年の夏は終わろうとしているのだろうか。 8/17 記

蛇足 山岳会関係などは週末山行に集中していると思いますが、今年は金土日をバイト休みにしているため、週末の状況はわからないので、見方はやや一面的かもしれません。